連載―「書写」って、こんなにおもしろい！(17)

書写の要素　字形：左右の組み立て方のポイント

山梨大学教授　宮澤（みやざわ）　正明（まさあき）

漢字は、「**山・日・子・正**」などのように単独の形として成っているものもあれば、「**岩・明・間・字・政**」のように二つ以上の形（部分）が左右・上下・内外に組み合わされて作られているものもあります。前者を単独形・単独文字、後者を複合形・複合文字などということがあります。

複合形の中で最も多いのは左右の組み立てで、小学校で学ぶ漢字の約半数に及びます。したがって、漢字の部分と部分の組み立て方の学習は、左右の組み立て方を中心に進められます。

左右の組み立て方で学習するポイントを次に挙げてみましょう。

① 左右の部分の横幅
② 左右の部分の高低
③ 単独形が部分（偏）になる場合の変化のしかた

① 左右の部分の横幅

基本は左右一対一の割合ですが、画数や固有の大きさなどによって、その幅は多少変化します。次にそれらの字例を示しましょう。

〈左右　一対一〉

教朝料話

〈左狭・右広〉

体海地情

〈左広・右狭〉

引制割創

② 左右の部分の高低

画数の多少や固有の形にもよりますが、原則として左右それぞれの頭部・脚部に存在する点画の方向が縦・斜め・横によってそれぞれの高低がほぼ決定します。

〈頭部の高低〉

林桜相

縦がいちばん高く、斜め・横の順に低くなる。

〈脚部の高低〉

練絵組

縦がいちばん低く、斜め・横の順に高くなる。

③ 単独形が部分（偏）になる場合の変化のしかた

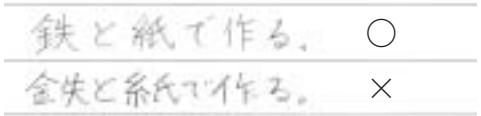
左右の組み立てで最も着目したいのが、単独形をどのように偏として変化させるかということです。

「金」を金偏に変化させる場合を考えてみましょう。

ア　幅を狭くし、縦長の平行四辺形にする。
イ　右払いを点に変化させ、右端をそろえる。
ウ　最後に書く横画を「右上払い」にする。
エ　中心画を右に寄せ、横画は右上がりを強くする。

先に書かれる左側の部分は、次に書かれる右側にゆとりをもたせること、また単独形のときに中心にあった重心を、複合形ではやや右側に位置するように書かなくてはなりませんから、このような変化を余儀なくされるのです。これらの変化は、他の漢字にも当てはまります。

横書きで書かれることが多くなった今日、左右の組み立て方が適切でないと下の例のように誤読されやすくなります。これまでに増して左右の組み立ての学習を強化する必要がありそうです。したがって、左右の組み立ての学習に当たっては、横書きの場合を想定させることで、動機づけができ、学習目的を明確にすることができます。



〈下段は左右の組み立てが不適切な例〉